

A decorative graphic on the left side of the page, featuring a vertical stack of squares in various shades of blue and purple, some overlapping, creating a stepped effect. A large, solid dark blue rectangle is positioned to the right of these squares, containing the main title text.

2009年3月期決算概要

2009年6月

稲畑産業株式会社

2009年3月期決算総括

<ポイント>

- ❑ 世界経済の減速を受け、主力の情報電子事業及び合成樹脂事業の業況の急速な悪化
- ❑ 売上高は為替(円高)の影響もあり、対前期比11.5%減の4,427億円
⇒円高による影響額565億円
- ❑ 営業利益は、売上総利益の減少に伴い、対前期比53.3%減の35億円
- ❑ 経常利益は、為替差益等が減少したものの支払利息等の減少もあり、対前期比50.9%減の38億円
- ❑ 純利益は対前期比26.0%減の21億円
⇒一部の関係会社への会計手当などの特別損失があったものの、投資有価証券売却益等の特別利益の計上に加え、税金費用が減少したため

連結	2008年度 3月末	2009年度 3月末	前期比
売上高	5,000億円	4,427億円	△11.5%
営業利益	76億円	35億円	△53.3%
経常利益	77億円	38億円	△50.9%
純利益	29億円	21億円	△26.0%
1株当り純利益	44円98銭	33円22銭	

2009年3月期 B/S

①減収に伴う売上債権及び仕入債務等の減少

②保有する投資有価証券の時価下落

単位:百万円

(資産の部)	08/03	09/03	増減	(負債／純資産の部)	08/03	09/03	増減
現金及び預金	6,716	11,247	4,531	支払手形及び買掛金	101,876	66,811	△35,064
受取手形及び売掛金	155,019	104,197	△50,822	短期借入金	67,469	49,499	△17,969
棚卸資産	31,419	27,477	△3,941	その他流動負債	10,320	9,088	△1,231
その他流動資産	8,772	10,746	1,974	長期借入金	10,547	14,774	4,227
有形固定資産	14,780	11,765	△3,014	その他固定負債	16,260	11,504	△4,755
無形固定資産	3,682	4,724	1,042	株主資本	54,607	55,971	1,363
投資有価証券	57,581	38,729	△18,851	評価・換算差額等	22,516	6,741	△15,774
その他固定資産	6,665	6,390	△274	その他純資産	1,039	886	△152
資産合計	284,637	215,279	△69,357	負債純資産合計	284,637	215,279	△69,357

2009年3月期 事業セグメント別売上高

情報電子 ⇒ 対前期比 Δ10.3% 192億円減

- ✓ 年度前半はフラットパネルディスプレイ（FPD）関連を中心に好調に推移した一方、年度後半の急激な需要減により減速
- ✓ 売上の減少は、為替（円高）の要因も大（約199億円）
- ✓ 香港、台湾を中心に北東アジアでの収益は比較的堅調

化学品 ⇒ 対前期比 Δ11.1% 83億円減

- ✓ 機能化学品では景気後退の影響により、樹脂原料、自動車関連材料などが低調
- ✓ ライフサイエンス関連では、医薬原料・中間体が堅調
- ✓ 売上は為替（円高）の要因もあり減少（約60億円）

合成樹脂 ⇒ 対前期比 Δ14.0% 260億円減

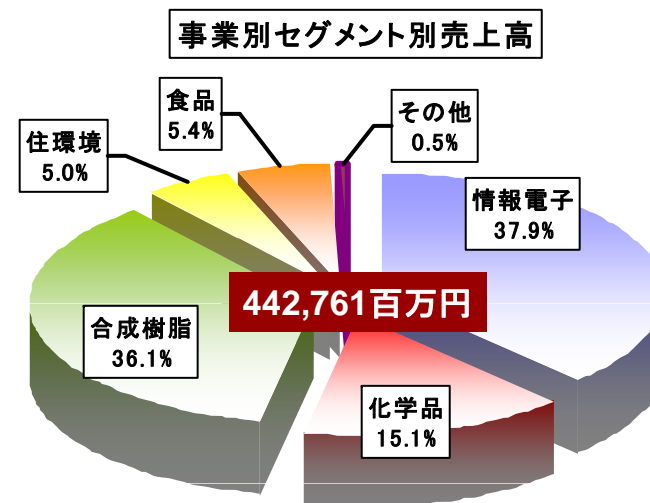
- ✓ 年度後半に入っの原油価格下落に加え、自動車及び家電業界の在庫調整により期末にかけて減少
- ✓ 一方、スポーツ資材は当社のネットワークが奏功し順調に推移
- ✓ 売上の減少要因は、為替（円高）の影響が大きい（約295億円）

住環境 ⇒ 対前期比 Δ7.1% 16億円減

- ✓ 建築・不動産不況の影響を受け、住宅着工棟数の低迷、竣工物件の値下げなど依然厳しい状況
- ✓ 重点販売商品の床材、階段等は順調に推移

食品 ⇒ 対前期比 Δ2.5% 6億円減

- ✓ 主力商材のブルーベリーの価格下落による減少があったものの、回転ずし向け商材、国産冷凍野菜が順調であったことから微減
- ✓ 今後は畜産事業については撤退



2009年3月期決算		
	売上高(百万円)	前期比(%)
情報電子	167,639	Δ10.3
化学品	66,700	Δ11.1
合成樹脂	160,034	Δ14.0
住環境	22,200	Δ7.1
食品	23,777	Δ2.5
その他	2,408	Δ35.9
合計	442,761	Δ11.5

2009年3月期 事業セグメント別営業利益

情報電子 ⇒ 対前期比 $\Delta 64.5\%$ 21億円減

- ✓ 台湾、香港を中心に北東アジアでの収益が年度前半は比較的堅調に推移したものの、年度後半の急激な需要減により減少

化学製品 ⇒ 対前期比 $\Delta 74.7\%$ 7億円減

- ✓ 業績不振の英国の硝化綿製造子会社(会社清算を決定)の損益の悪化に加え、景気悪化の影響により、全般に低調

合成樹脂 ⇒ 対前期比 $\Delta 35.6\%$ 11億円減

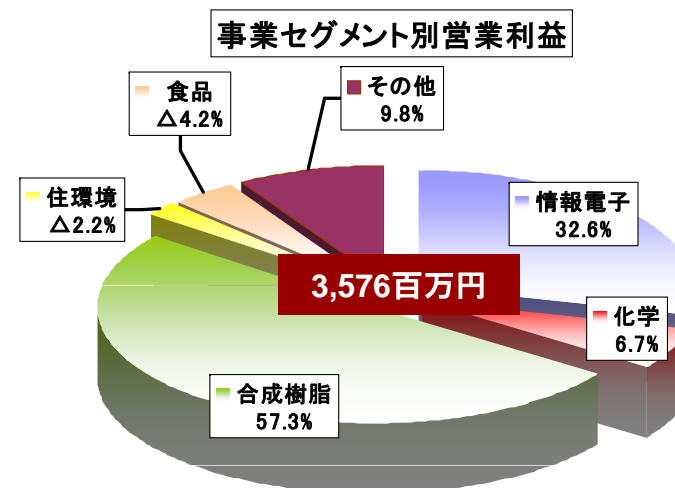
- ✓ 年度後半に入ってから価格下落と需要低迷の影響により減少

住環境 ⇒ 対前期比 2億円減

- ✓ 建築・不動産不況の影響により、全般に低調

食品 ⇒ 対前期比 1億円増

- ✓ 水産物が比較的順調であったこと等により、採算性が向上
- ✓ 在庫処理の目途がついたことにより、今後は高利益率の確保を図る



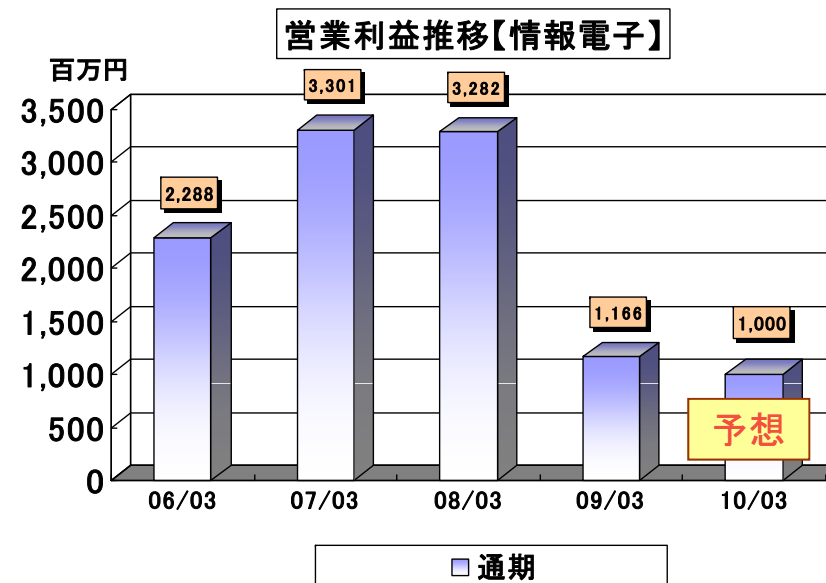
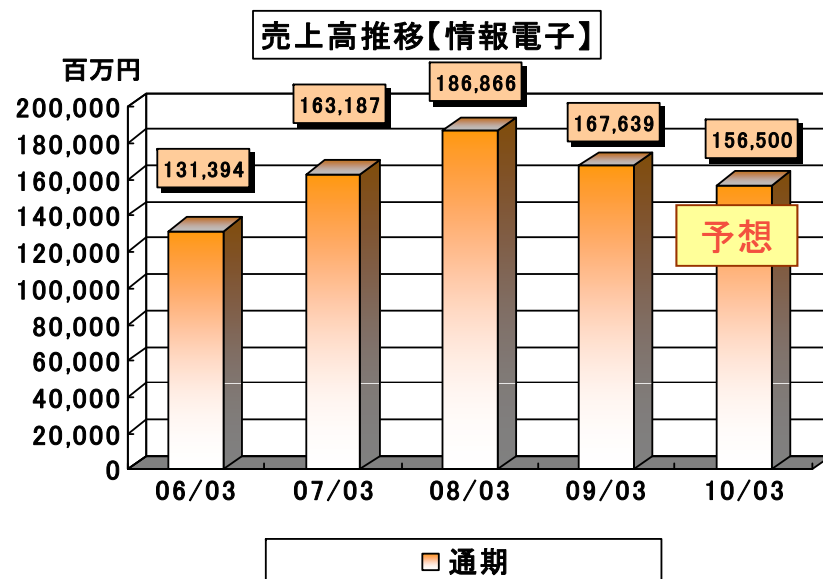
	営業利益(百万円)	前期比(%)
情報電子	1,166	$\Delta 64.5$
化学製品	239	$\Delta 74.7$
合成樹脂	2,049	$\Delta 35.6$
住環境	△81	(※) —
食品	△150	(※) —
その他	350	$\Delta 10.0$
合計	3,576	$\Delta 53.3$

※ 前期 住環境 140百万円 食品 $\Delta 283$ 百万円

2009年3月期 主要事業の個別概況(情報電子)

売上高 対前期比 Δ 10.3% 192億円減少

- 年度前半はFPD関連を中心に好調に推移
- 年度後半は世界同時不況により急激な需要減
- 台湾、香港を中心とした北東アジアは比較的堅調
- 中長期的な需要・生産性動向を踏まえ、既存分野でのシェア拡大や新規分野開拓の強化



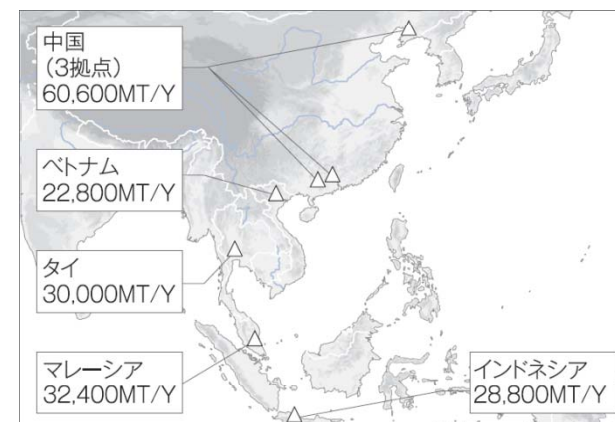
'10年3月期の数字はあくまで予想であり将来にわたり環境などの変化により数字は変動致します

2009年3月期 主要事業の個別概況(合成樹脂)

売上高 対前期比 Δ 14.0% 260億円減少

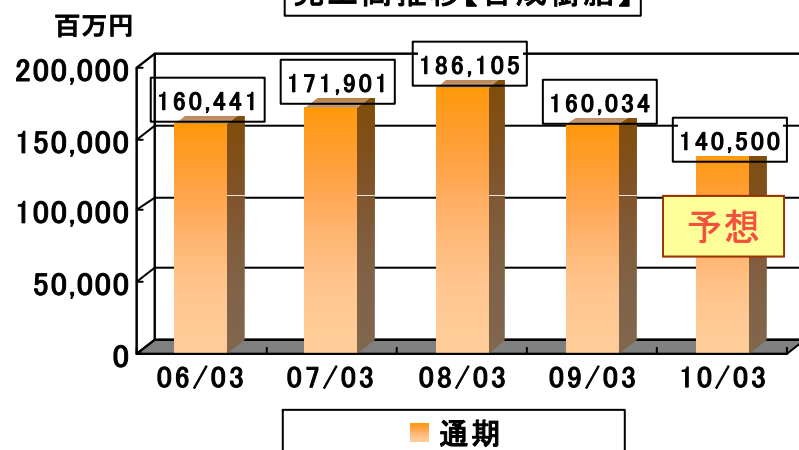
- 原油高騰の影響により年度前半は好調
- 年度後半に入り価格下落及び在庫調整の影響により低調に推移
- スポーツ資材は、当社のネットワークを活用し、順調に推移

樹脂コンパウンドの年間生産能力

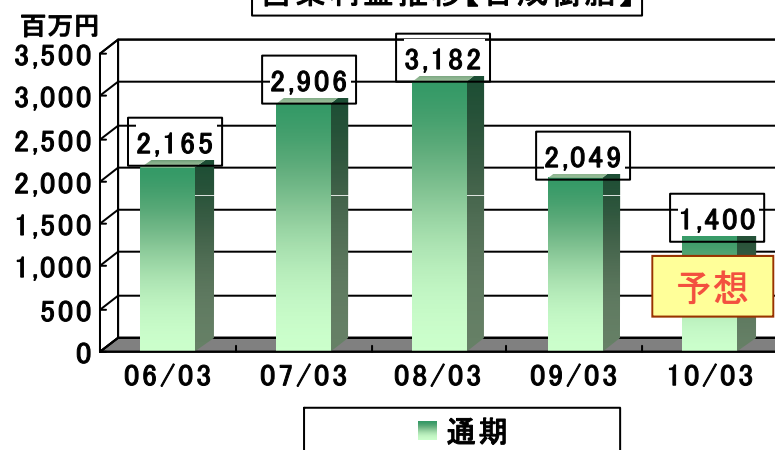


174,600MT/Y 5カ国7ヶ所 (2009年4月1日現在)

売上高推移【合成樹脂】



営業利益推移【合成樹脂】



'10年3月期の数字はあくまで予想であり将来にわたり環境などの変化により数字は変動致します

2009年3月期 地域別概況

東南アジア ⇒ 対前期比 $\Delta 19.6\%$ 150億円減

- ✓ 年度後半は世界的不況の影響から商社・加工部門とも急速に減少
- ✓ 売上の減少は為替(円高)の要因も大(約270億円)
- ✓ インドネシアでは概ね好調に推移
- ✓ 新規にスポーツ資材の製造会社を設立

北東アジア ⇒ 対前期比 $\Delta 8.1\%$ 62億円減

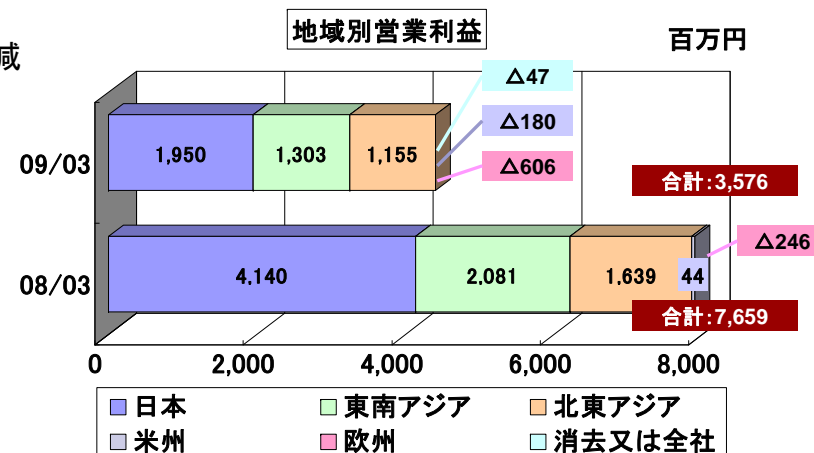
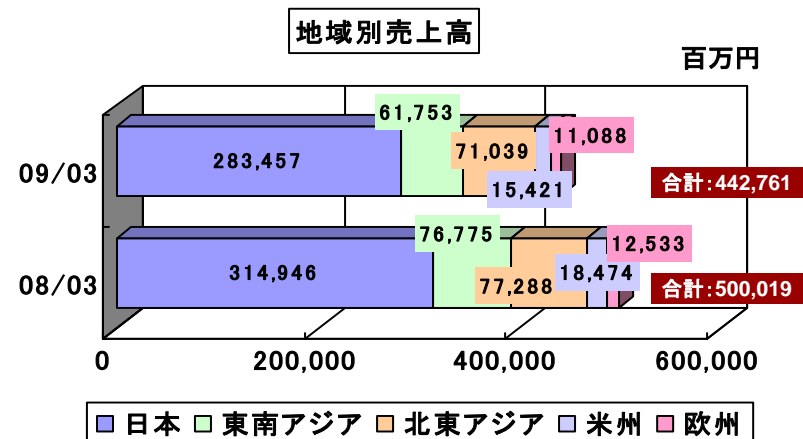
- ✓ 域内経済に支えられ比較的堅調に推移
- ✓ 売上の減少は為替(円高)の要因も大(約180億円)
- ✓ 年度後半は欧米向け輸出が減少
- ✓ 台湾での液晶関連商品が大幅に伸長したが、年度末にかけて急減

米州 ⇒ 対前期比 $\Delta 16.5\%$ 30億円減

- ✓ 年度後半の金融危機に端を発する各業界の失速により厳しい状況
- ✓ 売上の減少は為替(円高)の要因も大(約45億円)
- ✓ すし用食材を取り扱う関係会社は引き続き順調

欧州 ⇒ 対前期比 $\Delta 11.5\%$ 14億円減

- ✓ 英国での太陽電池関連等一部明るい兆しがあるものの、硝化綿製造子会社の清算の決定等もあり、総じて苦戦
- ✓ 売上の減少は為替(円高)の要因も大(約67億円)



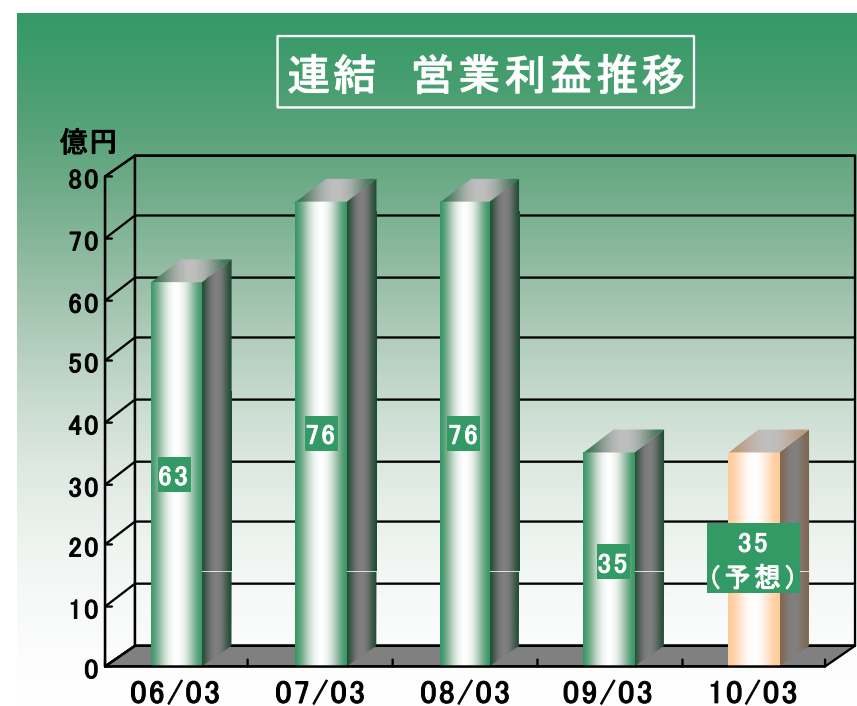
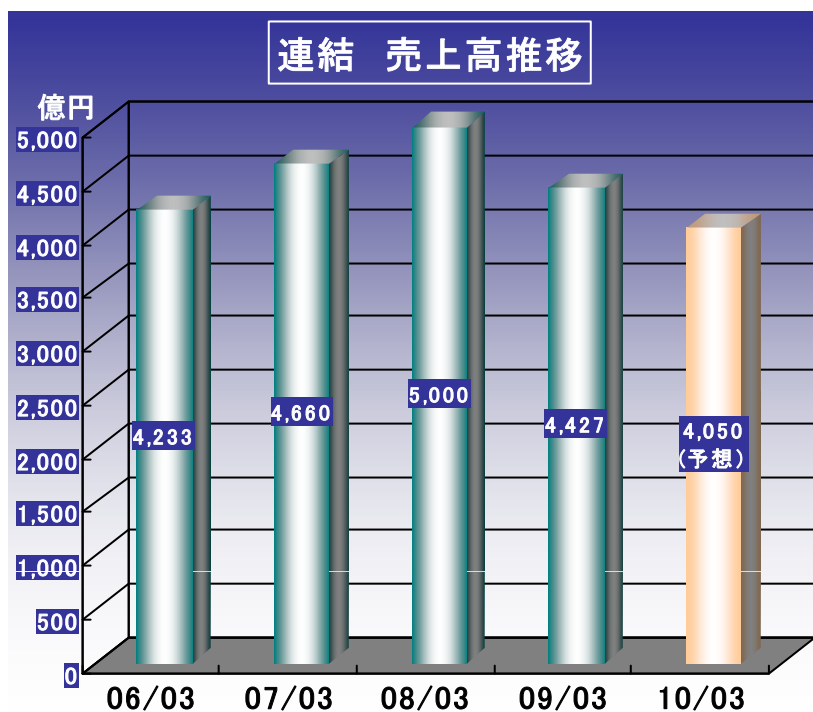
2009年3月期 連結子会社概況

- 連結子会社は対前期比8社増加（海外9社増、海外1社減）
- 持分法適用関連会社は対前期比3社増加（国内2社増、海外1社増）

	連結子会社状況(内訳)		
	国内	海外	合計
連結子会社	13	44	57
持分法適用関連会社	5	5	10
合計	18	49	67

■ 売上高と営業利益の推移と見通し(06年3月期～10年3月期)

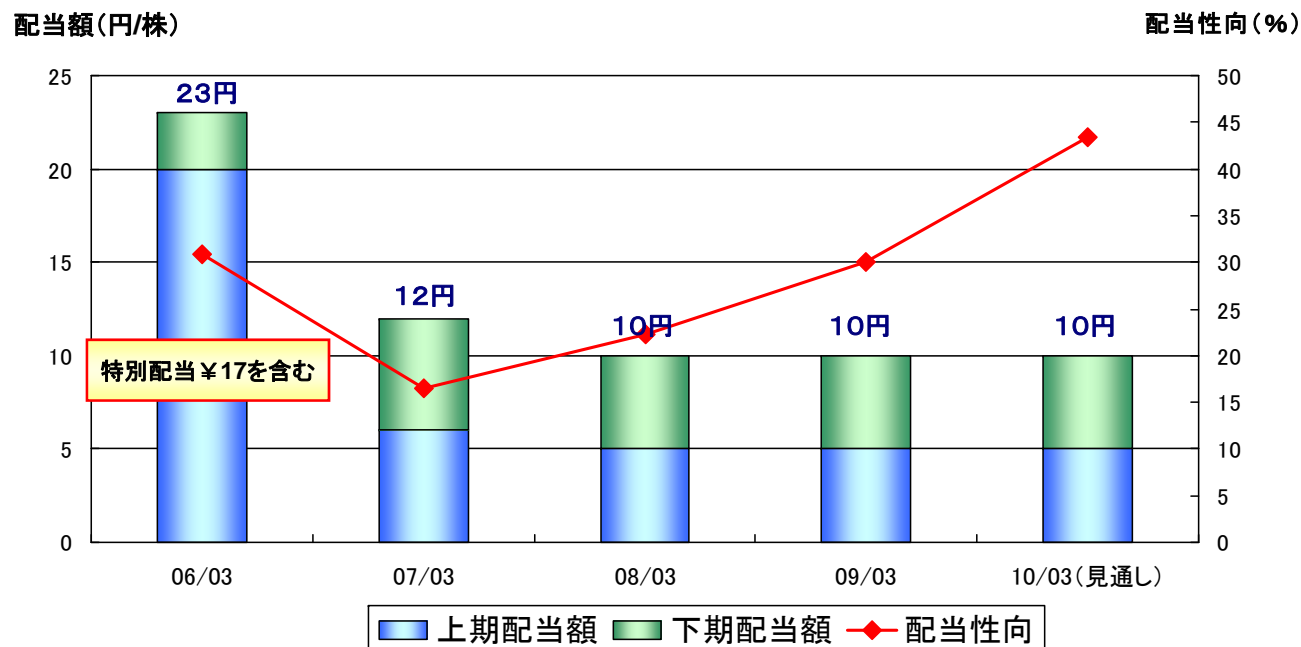
- 引き続き主力の情報電子、合成樹脂を中心に積極的かつグローバルな事業展開を推進



'10年3月期の数字はあくまで予想であり将来にわたり環境などの変化により数字は変動致します

株主への還元

- 事業収益やキャッシュ・フローの状況などを勘案し、連結純利益の20%~30%程度を目安とし、今後の企業価値向上に向けての中長期的な投資などを考慮しつつ総合的な判断で決定。
- 利益水準に関わらず、原則として1株あたり最低限年間10円の配当金の維持に努める。



今後の方針

- ▶ シナジー効果の実現を重点に置いた事業の再構築を推進
- ▶ 有望なアライアンスの締結の促進と自社企画プロジェクトの拡充
- ▶ グループ会社を含む全社員で内部統制の推進に取り組むとともに内部統制システムの充実を図る
- ▶ 引き続き国内外の連結経営を強化、収益力の向上、人材の育成に一層注力する
- ▶ 資金の効率化の更なる向上と財務体質の強化